

あわべに 淡紅 だより

No. 33

2011年11月号

宝塚市議会議員

おおしまと き こ
大島淡紅子

■ 議員控え室

●Tel 0797-77-2117
●Fax 0797-74-1810
●E-mail
goiken@tgikai.zaqr.s.jp

■ 事務所

〒665-0816
宝塚市平井 1-6-14
●Tel & Fax
0797-89-4090
●HP
http://ayumukai.jp/
●E-mail
o-ayumukai
@hera.eonet.ne.jp

☆月～金 10:00～15:00
但し、不在のこともございますので、お電話をさせていただいてからお越しください。
☆事務所のコピー機・印刷機（新機種入りしました）ご利用ください。（有料）
☆事務所をグループ・サークル等の活動にご利用ください。（無料）
《使用日時は電話でお問い合わせください。》
☆事務所に教育・平和・食の安全等の本があります。お気軽にご覧ください。

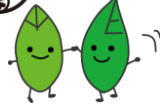
私たちは、福島第一原発事故を境に、大きな闇を背負ってしまいました。ネ

イティブインディアンが語り継いできた禁断のウラニウムを使い、原子爆弾をそして平和利用と証して更に危険性の高い原子力発電にと、次々と手を染めて…危険を訴える声より、利便性や経済効果を選ぶ声の方が、遥かに大きかったのです。

しかし、失敗を悔やんでいるばかりではどうしようもありません。こうしている間にも、事態は進



落合恵子さんと。気配りのある、でも熱い人。ステキです。



行しているのですから、被害は最小限に食い止める手立てを講じなければなりません。

「ほうしやのう、こないで！」

今年の七夕の短冊に、子どもが書いた言葉です。



市民活動で、今年ほど「変わった」と実感を持てたことはありません。

今までは、集会に参加しても、顔ぶれはいつも同じ（しかも中高年）。周りからは「カゲキな人たち」と思われ、運動の行き詰まりも感じていました。ところが、「脱・原発」の講演会や集会には、ベビーカーを押した夫婦やカップルなども参加しています。

伊丹で開催した集会の感想から「七世代先を見据えて1ミリでも進んで行きたい（30歳代）」

落合恵子さん曰く「しなやかで確実な異議申し立てを」。気負うことなく、社会の中の「？」を見逃さないで、一緒に行動しませんか！

議会云報出口

1 一般質問

1 原子力発電所の事

故による放射能汚染から子どもたちを守るために

（1）災害廃棄物処理に対する宝塚市の方針は



Q 災害廃棄物処理に対する宝塚市の方針は
A 放射能に汚染された廃棄物の受け入れは困難



週刊誌で「震災被災地の瓦礫処分」に手を挙げた全国の自治体名に「宝塚市」が掲載されたため、大きな反響がありました。市は明確に否定し、再度10月21日締め切りのアンケートにも「回答不能」と答えたようです。

しかし、来年4月に施行される「放射性物質環境汚染対処特別措置法」や環境省の広域処理ガイドラインは、放射能の汚染拡大につながる恐れがあります。また、日弁連も（前記の）



（2）子どものいる自主避難者に市営住宅を

Q 今後、希望者は増加すると思われる。日弁連も見直すべきという入居基準をどうするか

A 受入れを前提に、原発事故に伴う市営住宅への入居要件を検討していく

福島県限定、しかも15軒を10軒に減らして受け入れます。現在、市民団体同士でマッチング進行中です。しかし、避難による生活困難や家族の不和等の問題が発生しているのも実状です。また、辛い現実を乗り越えるとき、ペットが心の支えとなり、その同居にも配慮するように要望しました。



平井のだんじり。
雨のためラッピング。



産業建設常任委員会では、高知県と高知市の観光施策「①龍馬伝推進事業、②上街区街なみ環境整備」を、また香川県高松市の「高松丸亀商店街市街地再開発事業」について、視察しました。



(3) 安全な学校給食を提供するには

Q 子どもや親の不安を減らすために、給食の放射能測定と数値公表は必要ではないか

A 委員会で請願が採択された。次の段階として、様々な課題を関係部局と協議し検討していく



チェルノブイリ事故後25年経っても子どもたちに深刻な健康被害を及ぼす原因は、内部被ばくにあります。また、低量でも慢性的に被ばくし続けると被害も重大になります。検査の実施には、食材の前日納入が必要など、大きな変更もありますが、例えば先進市では食材や産地を特定し、検査・公表をしています。学校給食は食教育であり、放射能・内部被



中山五月台田
皆さんの協力も
地域の皆さんの
「さとやま」が
あります。西谷
小内に、畑・ビ
オトープ・デッ
キもある。



ばく、流通などの、生きた教育となります。

今や給食は、子どもの食生活のセーフティネットとなっている側面もあり、出荷段階での徹底した測定と結果公表を、国へ要望するよう求めました。

(4) 省エネ・新エネの調査と研究について

Q 省エネルギー、太陽光発電やバイオエネルギーなどの、新エネルギーに関する調査研究の進捗状況と、今後の方向性は

A 住宅用太陽光発電の普及・促進等、新エネルギー導入促進の調査研究を行う

再生可能エネルギー特措法が成立し、新エネルギーの開発・実用化・量

産に弾みがつくと思われます。また、特定規模電気事業者（PPS）との契約も、財政効果が期待できます。（立川市は電気代千七百万円を削減）「調査研究は急務。市民と一緒に考え行動したい」と力強い市長答弁がありました。

2 兵庫県立高等学校普通科の通学区域のあり方について

Q 中間まとめが発表された時点で、どういうアクションを取ったか

A 具体案は公表されなかったので、県教委の動静を見守った

Q 「宝塚市における高等学校通学区域検討会」での議論の概要は

A 新しい学区制度の実施は時期尚早、学区拡大は慎重に検討を要望

Q 選抜制度の見直しにあたり立ち上げた「宝塚市における高等学校入学選抜制度等検討委員会」のまとめは

県教委にどのように影響を及ぼしたのか

A 宝塚学区に複数志願選抜制度と特色選抜制度が導入された

Q 市の「検証」は、なされているのか

A 県教委のアンケート実施で、新入生の8割以上が高校生活に肯定的。制度は定着と認識している



県の狙いは高校の統廃合です。謳い文句の「行きたい高校が選べる」は、実際は「受かる確率の高い高校でガマン」に過ぎません。市内の中学生の卒業後の高校進路は、この3年間で『私学減・公立増・定時制増・通信制激増』。この現象は08年のリーマンショックが子どもに影響していると思われます。「公立ならどこでも」の子ほど、通学に負担が増えるー教育のセーフティネットの危機です。



3 市立中学校生徒宅火災事案に関する調査専門委員会の提言について

外国人の権利保障

Q 市は労働環境の改善を促しているか

A 企業にセミナーや冊子配布で啓発

Q 日本語教育支援等の一層の充実

A くらんど人権文化センターと国際文化センターで母語・日本語を指導

Q 居場所づくりは

A 国文センターは週2回母語指導員が勤務。高司児童館は中学生の居場所づくりを。くらんど人文センターは母語教室や児童・生徒に学習・遊びを通じた居場所づくりをしている



第15回 たからづか民族まつり ～ともに生きようこの街で～
小学校の体育館でベリーダンスが観られるとは思わなかった。
将来のダンサーがここから出るかも。

☞ 早朝から深夜までの過酷な労働。デカセギ日系人たちは地域社会から認知されにくいのです。市役所での相談件数もたった1件。時間帯や場所を考え直さなくてはなりません。

この10年で63万人も増えた(25倍に)外国人登録者のうち、永住者の増加が顕著です。現実には、ブラジル人の2人に1人は永住者で、そのうちの5人に1人は子どもです。

日本社会を恨んだ大人になつて欲しくない、宝塚で貰った温かさを、将来、人に与えて欲しいと願っています。



4 シンシアのまち宝塚について

Q 市の考える「シンシアのまち宝塚」の意味は

A 市民全てが住みやすいまちづくりの取り組みと位置づける

Q 「シンシア」をシンボライズした成果は

A インクルーシブな地域

社会を形成する動機付けの一助

Q 身体障害者補助犬法成立10年を迎える来年を期して、市の計画は

A 補助犬の普及・啓発につながる事業を検討



☞ 介助犬は全国で55頭、兵庫県ではわずか5頭ですが、この宝塚には2頭も暮らしています。しかし、介助犬使用者のお二人は、他市・他府県での活動が多いとのこと。是非、宝塚でも中学校、介護・医療専門職を育てる看護学校や医療大学で活躍して頂きたいと願います。



シンシアをデザインした市の補助犬マーク。

認定について↓認定 **反** 太誠会

・宝塚市特別職職員の給与並びに議員報酬の削減及び議員定数の削減を図るための関係条例の整備に関する条例の制定について↓否決 **賛**

太誠会

・特別職職員給与・議員報酬を3〜4割削減。議員定数26人を20人

・宝塚市の施設及び市議会議場における国旗の掲揚並びに市の一般職の職員、特別職の職員及び市立学校の教職員による国歌の斉唱に関する条例の制定について↓否決 **賛** 太誠会・富川・山本

・市施設・議場の国旗掲揚と、一般・特別職職員の国歌斉唱義務

・宝塚市教育委員会の委員任命につき同意を求めることについて↓同意 (全員一致)

・市民公募。80名の応募の中から

2 主な議案・請願・陳情の審議

・宝塚市市税条例の一部を改正する条例の制定について↓可決 **反** 共産

・国の法改正を受けて

・平成22年度宝塚市病院事業会計決算



防災に関する調査特別委員会の視察

長野県大町市を視察しました。
①地域新エネルギービジョン
②小水力発電設備の現地視察 (②はNPOも3箇所で実験稼働中。)



町川小水力発電施設。これ位の落差があれば発電可能。(右の1本が発電用。他は農業用水)



JR信濃大町駅ホームで。花畑(NHK「おひさま」ロケ地)は撮影用壁紙。ここにもおもてなしの精神が

論文・討議・面接で

・宝塚市選挙管理委員選挙について↓選挙執行(指名推薦)

・闘病中の候補者もいるが、11月に復帰とのことで(復帰済み)

・「食材の放射線被曝における学校給食検査体制」についての請願↓採択 (全員一致)

・測定器購入と検査・数値公表を求めるもの

・沖縄県において明確にされた普天間基地の県内移設反対・撤去の住民意思を尊重し、国の政策立案・実施に反映することを求める意見書の提出及び決議を求める請願↓趣旨採択 (賛成多数)

・「外交問題は国の専権事項。慎重な態度が望ましい」と国が要望。だが住民意思を尊重し、請願者の願意を汲むという選択。

議会改革進行中！

私たちは、議会基本条例に則って、改革を進めています。



◆ 議会報告会

第2回9月議会の報告会が終了。第1回（2日間）の参加者120名が、今回は30名。でも、じっくりと意見交換ができました。

「広報の仕方を改善し、門戸を開く報告会に」。この意見のように更に努力していきます。

第3回は、2012年1月28日（土）フレミラ宝塚、1月29日（日）西公民館で開催。いずれも10:00～12:30。ご参加ください。

◆ 議員間の自由討議

形式として「①論点の洗い出しと整理→②質疑→③自由討議→④討論→⑤採決」の過程を取り、より判りやすく。

◆ 議会報『かけはし』

「読みづらい」点を改善しつつ、なるべく議員の「ナマ筆」も載せて行きます。最終的には全面リニューアルをめざします。

◆ 議場の音響改善、インターネット中継を



good! 議会とは、議員や会派の競争の場ではなく、「市民福祉の向上」という共通の目標に向けて、一丸となるべき。会派内でも議論すべきものは議論を尽くし、切磋琢磨することが必要です。オトモダチ集団ではないのですから。

ドキュメンタリー映画「いのちの林檎」

上映会と監督・プロデューサーによるトーク

12月4日（日） 13時開演

市立西公民館ホール（阪急小林駅下車） 無料

※要申込 中央公民館（0797）73・0606

平日9時半～17時半に

重症の化学物質過敏症の女性・早苗さんと、その命をつなぎとめた有機無農薬栽培の林檎の話。化学物質が私たちに及ぼす影響を知って頂きたい！

早苗田の会

杉山鮎水 選

九月

（特選）白萩や幼な顔なる観世音

◇ 目の澄める秋刀魚選びぬ市の空

◇ 水の音絶えず間遠に鹿威し

十月

（特選）秋遍路夕映えの中消えゆけり

◇ 水引の花の離さぬ雨の粒

◇ 弥勒像御身ほつそり残る虫

綾子

峯子

綾子

恵之輔

綾子

峯子

実現！「赤ちゃん登校日」

17組の赤ちゃん和妈妈が1日先生に



17組の親子が南ひばりガ丘中に集合、中学生の先生になりました。日ごろ赤ちゃんに接することがない南ひばりガ丘の中学生たちは、生後2ヶ月から3歳までの乳幼児と触れ合い、赤ちゃんの成長を目で見て実感しました。中には臨月のママもいて、お腹に手を当て、胎動を感じさせてもらうことも！卒業生のママは、2ヶ月の赤ちゃんを連れ、わざわざ電車に乗って来てくれたんですヨ。

赤ちゃんにとっては刺激となり、ママにとってはあと10年余りのわが子の姿が想像できたようです。教育ボランティアとして社会参加する意義も、感じてもらえたでしょうか。中学生にとっては命の授業であり、育ててくれた人への感謝も述べていました。また、児童館という新たな居場所を得ることも出来ました。

児童館・学校・市が連携した賜物です。



（参考）地域猫活動（TNR）とは

1. 野良猫に不妊去勢手術を行い、元のテリトリーで一代限りの命を全うさせる。
2. 餌やりのルールを決め、糞尿の掃除を行い、衛生面の配慮をする。
3. 子猫が生まれなくなり発情期の鳴き声や喧嘩がなくなる。
4. 数が増えない事により猫の管理がしやすくなる。
5. 数が減ることで被害や近隣トラブルも軽減される。
6. 駆除や迫害をせずに動物と共存できる事を地域の子もたちに学ばせる事ができる。
7. 地域の一人一人が結びつく事で防犯の効果も期待できる。



7年前、野良猫を増やさないための対策について議会でも質問し、口谷のM自治会の皆さんと「犬・猫の不妊・去勢手術促進と助成金制度の実施」についての「請願」を提出しました。それがやつのことで、助成金制度導入実現となりました。野良猫の害に困る人と、殺処分に対する人の共通する「野良猫を増やさない」という点で、お互い歩み寄った、実に民主的な結論です。自治会で組織さ



宝塚市は地域猫活動を推進することになりました

今後、住民間の結びつきが期待されます。推される宝塚市環境衛生推進協議会や、県動物愛護推進員、県動物愛護センターと市で会議や学習会を開催し、活動指針を作りました。子どもに「命を大切にしないさい」といながら、面倒をかけるからといって命を奪ってはいけません。説得力がないばかりか、大人への不信感を生んでしまっています。

